

加賀家文書歴史講座

「西別川の献上鮭」のお知らせ！

江戸時代の寛政 11 年（1800）から行われた献上鮭の製造を文献資料、絵図などからわかりやすく紹介します。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 平成 24 年 2 月 4 日（土）午前 10 時 30 分～12 時
- 場 所 別海町郷土資料館 附属施設 加賀家文書館
- 申込等 2 月 3 日（金）まで。電話・FAX・メールにてお名前と電話番号をお知らせください。定員 20 名程度。



昔の道具を体験！～別海中央小学校4年生～

小学校 3、4 年生は、昔の生活や道具を勉強する社会の授業があります。12 月は、昔の道具を調べに別海中央小学校 4 年生のみなさんが来館されました。

展示してある資料の見学や昔体験セットから「火のし」「炭火アイロン」「湯たんぽ」「石油ランプ」「せんべい焼き」を体験しました。アイロンの体験では、今の物も体験してもらい比較すると軽くて便利なのがわかりました。また、せんべい焼きは、自分で焼いたせんべいを食べる事が出来るので、大変好評でした。電気、水道のない時代の生活を短い時間でしたが、体験出来たことと思います。お礼のお手紙もたくさんいただきました。



ふるさと講座自然系 第 4 回目 「渡り鳥観察会」

12 月 4 日（日）野付半島で渡り鳥観察会を開催しました。講師は、羅臼町立春松中学校教頭の藤井薫氏です。秋からすっかり冬に雪化粧し悪天候の中でしたが、「冬の嵐の中のバードソン観察会」と題して実施されました。

バードソンとは、数名が班となり観察した鳥の数を競うものです。観察範囲は、野付半島竜神崎の淡水池から春別川河口の白鳥台までとしました。主な観察地点ごとには、講師からの細かい情報を聞くことが出来るように、トランシーバーを使用しました。悪天候の中の観察会でしたが、24～25 種と晴天時の観察会並みの野鳥を見ることが出来ました。



近世の別海を探る「西別川河口から北」その 11

シュンベツ

文献資料の標記は、「シュンヘツ」「シュンベツ」「シユラベツ」「シレヘツ」「シユムベツ」「シユムベツ」があります。今の春別川です。



○地名の由来

☆ [シュンヘツ]

「名義、油川と云儀也。昔鯨を取、油を絞りしが故に此名有と。」『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政 3 年 (1856)

☆ [シュンヘツ]

「此川上谷地水にて油のごとく赤く光るを名付よし油水の川」『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政 6 年 (1859)

☆ [シユムベツ]

「溺死川「エシユムペツ」ノ略言ナリト云フ。」『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治 24 年 (1891)



○地勢や建物など

・前期松前藩時代 18 世紀後半

「蝦夷人住居の地名・川」『東蝦夷地各場所様子大概書』松前藩 文化 5 年 (1808)

「子モロ夷人住居地名・川」『東行漫筆』荒井保恵 文化 6 年 (1809)

・松前藩復領時代 文政 4 年 (1821) ~ 安政元年 (1854)

「川有。川有。鮭鱒上るよし巾五十間。此処ノツケ湖の口也。川口凡二十五間。傍ニ夷人小屋有るなり。『初航蝦夷日誌』松浦武四郎 弘化 2 年 (1845)

「深四尺程 幅五拾間程 常々陸無通○ 是北シベツ山より流出水源凡拾里程流寛くアメ鱒小魚入川漁無し候」『嘉永七年七月 水野正左衛門様差上書面写巻冊 青山弥惣右衛門様差上書面写巻冊』支配人 善吉 嘉永 7 年 (1854)

「此所に川有。巾五拾間程、深サ四尺程。」『古人の邑嚙 嘉永七甲寅年閏七月 [子モロ場所]』加賀伝蔵 嘉永 7 年 (1854)

・幕府再直轄時代 安政 2 年 (1855) ~ 慶応 3 年 (1867)

「川有」『蝦夷行程記 卷之下』阿部喜任纂述・松浦武四郎校訂 安政 3 年 (1856)

「字シュンベツ 川 但巾五拾間程 長四間程 常に陸無通路右はシベツ山より流出水源凡拾里流寛くアメ鱒小魚入川漁無之候」『根室旧貫誌』喜多野省吾 安政 5 年

別海町郷土資料館だより No.150

発行日 平成 24 年 1 月 6 日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

この「だより」が 150 号になりました。月 1 回の発行で当初は全戸配布、その後 WEB 版ということになりました。今後も一つの情報媒体として発行を続けたいと思います。館内では無料配布しています。また、新資料や展示替えも毎年、若干行っています。ぜひ起こし下さい。(K.I)